

X圏域調整会議での議論経過

○圏域における医療提供体制の見直しを進める必要がある（論点）

- ・ A病院において急性期機能を維持・確保する必要
- ・ B・C・D病院などで回復期・慢性期を確保する必要
- ・ 急性期と回復期・慢性期の役割分担を明確化、連携の強化、圏域全体で効率的な提供体制の再編

○意見交換の場の設定を

- ・ 機能分担・集約は自然に進んできたが、今後に向けさらに協議の場が必要
- ・ A病院も将来が約束されてはいない。急性期を維持 するための検討の場が必要
- ・ 少数でのクローズドな会議として設定していく

協議の目的

機能分担

- 急性期医療を極力集約化→ 圏域内の機能維持と効率化
症例の確保による新専門医制度への対応
若手医師の確保と指導体制の維持
- 回復・慢性期医療の分担→ 入院患者の確保
急性期からの転院先確保
- 経営の安定化→ 患者・症例の確保により双方にメリット
- 経費の節減→ 医師の応援によるバックアップ体制
材料価格ベンチマークの共有や将来の共同購入

機能連携

- ICTの活用→ ITネットワークの拡充や地域包括システムの付加
将来的な電子カルテデータの共有（一貫治療）
- 地域連携室の強化→ 患者・家族の対応を広域化

働き方改革への対応

- 医師の安定確保→ 診療科別の偏在にどう対処するか
- スタッフの確保→ 看護師等の充足が医師を支える条件になる
- 働き方改革への対応→ 院外を含めた当直業務の管理、勤務間インターバル
など勤務時間の適正管理

これからの課題

A病院

- 現状の機能維持
- 急性期症例の確保（新専門医制度への対応）
- 救命センターの医師増員
- 手術室の改修または手術棟の増築
- 安定的な経営に向けた収支改善

B病院

- 常勤医師の確保
- 急性期医療の取扱い
- 外来機能の維持・拡充
- 救急機能の再検討
- 連携機能強化
- 安定的な経営に向けた収支改善